



ドイツからの
環境・エネルギー
先端レポート

再生可能エネルギー法①

● 松田 雅央(まつだまさひろ)
1966年盛岡生まれ。カールスルーエ市在住ジャーナリスト。1992年東京都立大学工学研究科大学院修了、1995年渡独。趣味はサイクリング。自然豊かな農村地帯を走る爽快さが好き。
<http://www.umwelt.jp/>

化石エネルギーからの脱却

このところの国際エネルギー価格下落にもかかわらず、ドイツでは逆に天然ガスの大幅値上げが予定されています。国際価格と消費価格の動きに時間差があるためですが、長期的にみればやはり天然ガスを含めた化石燃料は需給逼迫と価格高騰が予想されます。

ドイツが再生可能エネルギー*の開発に力を入れる理由のひとつがこれです。もちろん二酸化炭素排出削減や、撤退を決めた原子力発電に代わる新たな電源の必要性もありますし、国際政治のしがらみを緩めたいという要因も加わります。また政府にとっては、再生可能エネルギーの研究・開発、設備生産、施工、設備管理まで雇用を幅広く確保できることも魅力です(2020年には30万人を超えると予想される)。

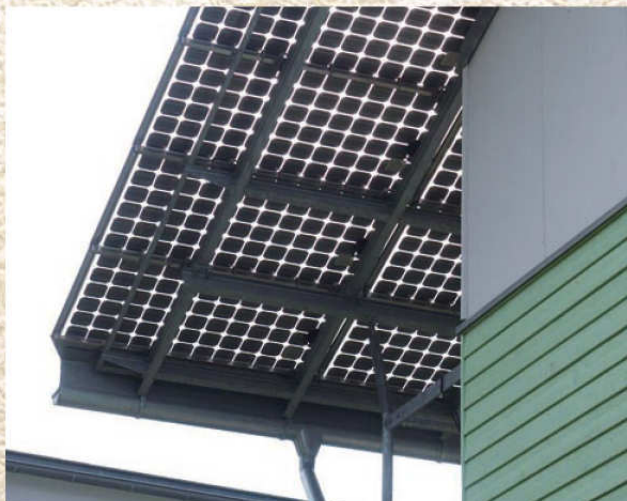
*再生可能エネルギー:
太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱といった自然エネルギーや循環型エネルギーの総称。広義には、ゴミ埋め立て処分場から収集される、あるいは生ゴミ発酵処理場で生産されるメタンガスを含む。

2つの普及促進制度

再生可能エネルギーの主な普及促進制度としては、一定割合以上の利用を義務づける固定枠制(クォータ制)や、買い取り価格を長期間保証する固定価格買い取り制(フィードインタリフ制)が知られ、日本が導入している新エネ等電気利用法は固定枠制に分類されます。

一方、ドイツのEEG**(再生可能エネルギー法)は固定価格買い取り制で、実はこちらの方が普及促進に有効と評価されており、世界的な主流にもなっています。

**EEG: Erneuerbare Energien Gesetzes



新築住宅ならば太陽電池一体型の屋根も選択肢の1つ

自宅に太陽電池

例えば、自宅の屋根に自己資金で20㎡の太陽電池を敷くことを考えてみましょう。

EEGにより売電価格(約60円/kWh)が20年間保証され電力はすべて電力会社に売却できますから、年間日照量を参考として発電量と売電収入(年間約11万円)をかなり正確に計算できます。設備の購入と設置に240万円かかるとすれば、投資額を回収するまでの期間は単純計算で22年。実際には国・州・自治体の各種補助を併用できるので、機器に重大な故障がなければ15年ほどになりそうです。50年といった長期ではなく現実的な年数での投資回収を保証し、安心して投資できる環境を整えるのがEEGの真価と言えます。

電力は電力会社から購入

なお、こういった仕組みのため太陽光電力はすべて売電し、自宅で使う電力は通常通り電力会社から買うことになります(約20円/kWh)。自宅でクリーンエネルギーを作っているのに通常の電力を使うとは矛盾も感じますが、その方が経済的に有利なわけです。

環境への取り組みは「環境にいいことをしよう!」という環境意識への訴えが基本になくはなりません。ただし、もう一歩進んで環境政策を広く普及させるためには、経済的なメリットこそが具体的な動機付けとなるのです。

さて次回は再生可能エネルギー法をもう少し掘り下げ、その成功の秘密を探ってみます。



一般的な戸建て住宅と太陽電池

表紙写真 写真家河野裕昭氏が撮影した水車の写真をお届けします

表紙は福岡県朝倉町の「三連水車」。筑後川の流れを受ける堀川にかかり、朝倉町の農地を今も潤している。貴重な文化遺産として国指定史跡にもなっています。



ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
Deutsche Asset Management
A Member of the Deutsche Bank Group



投資信託営業部
☎ 0120-442-785
(受付時間:営業日の午前9時から午後5時)
<http://www.damj.co.jp>